

未来に誇れる西宮をつくるために。

ホームページもご覧ください。

<http://masatake.jp/>

田中まさたけ

検索



市政・市議会報告



ひとごと

「他人事」のお役所仕事

「オープン西宮」「開かれた市政」を掲げられた市長が当選されてから3年半。

その実感はいまだ薄く、市役所は「他人事」で「お役所仕事」を続け、大きな変化の兆しも見えてきません。

私がこのチラシを発行し続ける理由は、市政の現状をお伝えすることと、皆様からの「声」を頂くことです。

西宮を皆さんと一緒につくるためには、生活者の視点にたった情報を提供する市政が必要だと考えています。

中面：市立中央病院決算／通学路の見守り活動／スクールサポートスタッフの配置について掲載

令和2年度
決算

■西宮市の人件費の状況

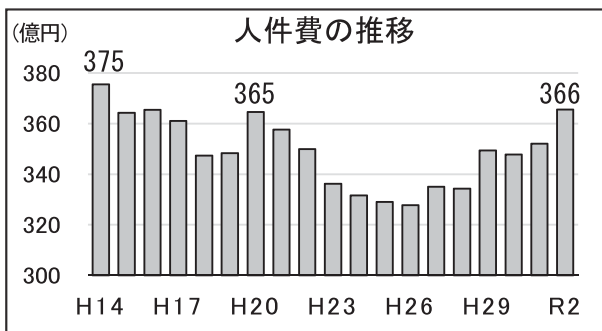
令和2年度一般会計の人件費は、前年度より14億円増加して366億円となりました。

私はこれまで、市民や民間の企業や団体と協働することによって市役所を効率化する方法を幾度も提案してきましたが、市は受け入れることなく、抜本的な改革に着手しようとしません。

令和2年度決算に基づいて他の自治体と比較した数値は発表されていませんが、令和元年度決算では、

- 人口1人あたりの人件費は、中核市58市の中で3番目に高額
- 経常経費に占める人件費の割合は、中核市58市の中で最も高く、6年連続第1位

という状況です。



これだけの人件費を投じながら、行政サービスの質が高いと感じる場面は少なく、むしろ、コロナ禍によって他市に後れを取った事例が多く、市役所の対応力の低さが露呈しました。

近い将来、住民福祉に影響を及ぼすことになる前に、市はもっと危機感を持って対応すべきです。

多様化する行政需要に対応するためには、民間との協働による聖域なき市政改革が急務です。

この記事に対するご意見や情報は、nishinomiya@masatake.jpまでお寄せください。

■市立中央病院の経営状況

市立中央病院の令和2年度決算は、コロナ禍の影響により患者数が入院・外来とも約11%減少し、病床稼働率は58.2%、救急受入件数も経営健全化計画の目標値を下回りました。

そして、令和2年度決算における市税投入額は前年度から約8億円減少して17億7000万円となりましたが、国・県の補助金は、前年度から約10億8000万円増えて約11億円となりました。

■コロナ患者対応の病床数をようやく公表

許可病床193床のうち、新型コロナウイルス感染症患者の対応病床を令和2年度途中から最大14床確保し、令和3年5月からは最大20床に増床したことが本年8月に初めて公表されました。しかしそのために、66床もの病床を空けて対応しており、中央病院はその理由を人員体制と設備の問題と説明しています。

■できない理由を先行させる公務員体質

中央病院の人員体制は、令和3年8月現在、医師48名（正規職員）、看護師が正規職員123名、非正規42名となっています。そして、正規職員1人当たりの給与費（令和2年度決算）は、

医師が約1490万円、看護師が約680万円となっています。

市は設置者として、必要な設備の強化や民間との協働を模索するなど、空けている病床の活用について、「できない理由」を考える前に「できる方法」を考えるよう指摘しました。なお、こうした議論をする常任委員会に、市長が出席して意見を聞く、議論するということはなく、どこか他人事であることを問題視しています。



現在、統合新県立病院の設計が進められていますが、土地代や建設費、運営費を一部負担する西宮市に対して県からの情報提供は限定的です。

この状況が続くようであれば、せめて開院後の市の負担に関する基本合意は見直すべきです。

情報の提供に消極的な西宮市。

■学校を通じた保護者への情報提供を要請

令和3年6月議会一般質問では、学校における感染症対応について以下の内容を提案し、市の対応を問いました。

●保護者の同意を必要とする子供の新型コロナウイルスワクチン接種に関して、保護者に対して、学校を通じて正しい情報を積極的に提供すべき

●長期間に及ぶ長時間のマスク着用が子供の心身に及ぼす影響を最小にするため、風邪症状のない子供たちが、学校で極力マスクを着用せずに授業が受けられる環境を整備すべき

●子供の心身の成長に関する課題に精通した専門家が入った機関を設置し、多様なデータ分析や専門家による科学的な知見を付して保護者に対して情報を開示する体制を構築すべき
市の回答は、積極的とは言えないものでした。今後も生活者の視点に立って問題点を指摘し、政策を提案してまいります。

■私は市政の情報を発信し続けます

ホームページやフェイスブック、インスタグラムを活用して、マスコミが取り上げない情報も発信します。

<http://masatake.jp/>

田中まさたけ

検索



登下校時の見守り活動一担い手確保に課題

安心
安全

■担い手が減少しても市は他人事で放置

市民の皆様から通学路の危険性を指摘するご意見が寄せられることが少なくありません。一方で市教育委員会は、毎年、全ての小学校で安全マップが作成され、安全確保への自覚を促していると説明しています。

通学路では、登下校時にPTAや地域団体のボランティアにより見守り活動が行われていますが、昨今、

①地域コミュニティの希薄化、②高齢就業者の増加、③共働き世帯の増加などにより学校安全ボランティアが減少しているとの情報を地域の方から頂きました。

そこで、6月議会一般質問において、登下校時の見守り活動の担い手の確保について、市の対応を質問しました。

- 現状は対策が学校任せになっていることから、担当する市の組織を明確にし、教育委員会も各学校の登下校時の見守り活動の状況を常に把握すること

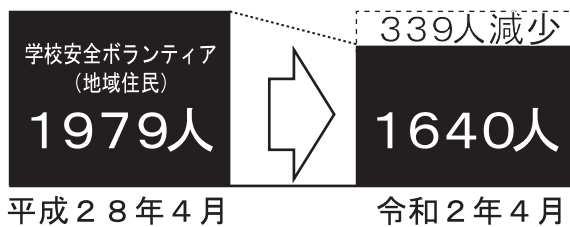


- 放課後事業の拡充を見据え、登下校の時間帯の変化に対応できる体制を構築すること
- 学校安全ボランティアの方々への健康ポイントの付与や謝金の支給、PTA活動との連携の強化など、見守りの担い手の確保策を強化すること

を提案しました。

この質問をした直後にも、他の自治体で子供が巻き込まれる交通事故が発生しました。そしてボランティアの人数が大幅に減少していたことを知りながら、市は他人事で、各学校任せにしています。

子供が登下校中に犯罪や交通事故に遭う前に、担い手不足の解消に向けた対策を早急に検討して講じるべきであると私は考えます。



記事に対するご意見は、nishinomiya@masatake.jpまでお寄せください。

現場の声を市政に

学校での感染拡大防止対策のための スクールサポートスタッフが再び配置へ。

教育
環境

学校での感染拡大防止等のために消毒作業等を担う「スクールサポートスタッフ」の配置について、昨年の6月議会での一般質問でも取り上げ、昨年秋から配置されていました。

しかし、県の補助金がなくなったことを理由に、本年4月から配置されておらず、教員の負担が増加しているとの情報を頂きました。

国が策定したマニュアルにより、感染防止対策に要する業務が増加するなか、教員の目を少しでも子供に向けてもらう必要があります。

そこで、現場での聞き取り調査で必要性を

確認し、本年6月議会一般質問において、昨年度に議員報酬を15%削減して生み出された「新型コロナ対応みやっこ元気寄附金による新型コロナウイルス感染症対策基金」を活用するなどして、配置するべきと訴えました。

そして本年9月の補正予算に計上され、2学期から対応されることになりました。

人員の配置は人件費の増加を招きますが、公にしかできない業務かどうかを見極めた上で、必要などころに人員を配置するというメリハリが重要であると考えています。

！コロナ禍に特殊詐欺の被害が急増。安心安全

■民生常任委員会で対策の強化を提言

●市民からの情報収集・相談ダイヤルの開設

「変な電話がかかってきたら即電話」と市民が常に意識できるように、市民が被害にあう前に不審電話について相談できる専用ダイヤルを開設するよう提言しました。そうすればさらに、そこで収集した手口等の情報を防災ラジオ等を通じてすぐに市民に対して提供することで、特殊詐欺について注意を促す仕組みを講じることも可能と考えています。

そのほか、

●特殊詐欺対策録音機付き電話機等の購入補助

●特殊詐欺対策に関する条例の制定

●検挙率の向上のための防犯カメラの増設

などを提言しました。

今後、「犯罪の対策は警察の仕事」として、防犯対策に消極的な市の対応を改める必要があると考えています。

■皆が他人事と思わないことも重要

手口は日進月歩で、巧妙になっているそうです。まずはご自身が注意し、そして、身近な人が特殊詐欺の被害にあわないよう注意喚起する必要があります。そして市は、警察と地域の方々と一丸となって、その後押しをするべきであると考えています。課題など情報をお寄せ頂ければ幸いです。

■特殊詐欺の被害状況

	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
被害件数(件)	70	80	108	155
被害金額(円)	7531万	1億572万	1億2551万	2億2715万
還付金	548万	1493万	93万	8443万
内訳 預貯金	—	—	—	4515万
架空請求	2636万	2022万	4015万	7411万

この記事に対するご意見は、
nishinomiya@masatake.jpまでお寄せください。

日々変化する新型コロナウイルス感染症に関する内容は、ホームページに掲載しています。

紙面の都合上、この市政・市議会報告に掲載しきれないことを、ホームページの「コラム」に掲載しています。また、新型コロナウイルス対策に関しましては、日々状況が変わりますことからホームページに掲載しています。是非ともご覧ください。



発行責任者

田中正剛 たなか まさたけ

昭和50年7月生まれ/大阪府立四条畷高等学校、神戸大学工学部卒業/元市議会事務局に4年間勤務した後、平成15年4月に西宮市議会議員選挙初当選(27歳)

■担当委員会:健康福祉常任委員会

■政党:自由民主党

■これまでに就任した市議会での主な役職
厚生常任委員会委員長、西宮市監査委員、病院問題特別委員会委員長、阪神水道企業団監査委員、西宮市議会副議長、建設常任委員会委員長、民生常任委員会委員長、第88代西宮市議会議長(41歳)

オンラインにも対応し、市政報告・意見交換会を再開しました。是非とも、ご参加ください！

「市民との対話なくして、真の政策なし。」

意見交換会の日程や会場等のご案内は、田中まさたけのLINE公式アカウントからもお送り致します。是非ともご登録頂き、ご都合の合う日程で、意見交換会にご参加いただければ幸いです。



LINE公式アカウントへのご登録は、こちらのQRコードをLINEアプリのホーム画面「友だち追加」から読み込んで下さい。

